



114  
A1403



方今財政之危難如一髮引千鈞

大正十一年四月  
隈正侯爵寄贈

閣下曾有成竹保壽之嘆，固知無輕重然苟  
 備未僚以稍默不言於心曷安因草別冊二議  
 呈之左亦曾以察屬湯澤正直所作命幣或  
 問公務餘暇賜一瞥以得補涓滴何幸  
 如之謹白

明治八年七月

深江順暢頓首



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大正十一年四月  
農務部寄贈

會計表中條款ヲ換置スル議

各年會計表ヲ作ル先ツ常用準備ノ二額ヲ分  
 手以テ歳入歳出ノ綜計ヲ統核ス而シテ内外國  
 債母子償却ノ一項ハ準備額中ヨリ支出シコレヲ  
 其條款中ニ列スル者ハ今謹テ其體制ヲ按シ  
 之ヲ歐米各國ノ例ニ徵スルニ内外國債ノ償却ハ  
 各國概皆常用歳入ヨリ支給シ之ヲ會計表歳  
 出第一欸ニ開列セザルハナシ夫國ノ債トシテ猶人  
 ノ疾アルカ如ク其輕重多少國ノ盛衰強弱  
 關スル尤大ニ且劇ナルヲ以テ獨リ在上官司ノ拮据

經畫ヲ要スルノミナラス併セテ闔國人民ヲシテ共  
ニ其責ニ任スルノ義ヲシラシメザルベカラズ故ニ量為  
ノ際先後ノ序ヲ設ケ先ツ此支償ヲ量定シ清  
理既完ツ而後ニ其餘ヲ以テ他ノ支給ヲ盈縮ス  
ヘシ是蓋コレヲ歲出第一項ニ掲ル所以ノ本旨ナリ  
且之ヲ常用支出ノ第一款ニ掲ケテ其償却ノ緩  
ニスベカラサル國計上至緊ソ重事タルヲ示ストキハ一ハ  
大小官吏人々其額ヲ識認シ肅然常ニ戒懼者  
約ノ念ヲ啓發シ易キノミナラズ土木甲兵其他糜  
財ノ擧ヲルニ臨テモ志意ヲ之ニ輕シ自カラ奢侈

浮大ノ費ナキヲ得ニ之ヲ譬フルニ人身自カラ嬰痾  
ノ劇キヲ知ルトキハ保蓄ヲ護養取テ一日モ怠ラズシ  
テ聲色ノ慾志隨テ灰滅スルニ異ナラズニハ内外人民  
ヲシテ我官ノ意ヲ國債ニ注クテ尤厚キヲ曉ラシ  
ムルカ故ニ内ニハ衆庶ノ信憑ヲ重クシテ國債証券ノ  
價格ヲ維持シ外ニハ洋商ノ嚮往ヲ来シテ交際  
互市ノ鉅益ヲ保有スヘシ即チ頃日我邦ノ信義  
感孚スルカ故ニ英地ニ於テ我債券ノ價位昂貴  
スルニ視テ知ルベキナリ然レニ之ヲ準備額中ヨリ支出  
シ常用支給ノ盈絀ニ關セザルカ如キハ毎年量為

高量ノ際緩急先後ノ序ヲ失ヒ或ハ之ヲ痛癢  
相知ラザルノ事トナシ官民意ヲ用ザルニ至ラニハス顧  
テ西洋各國ノ之ヲ歲入第一款ニ置ク者蓋シ人民ノ  
以テ義務トシテ貢納スル所ノ租稅ニ直接スルニ取ル  
ルナリ抑準備ノ名タル其主トスル所專ラ流通指鈔  
ノ準備トスルニアリ故ニ須カラクカメテ其數ヲ増殖  
セニテヲ謀ルベシ然ルニ舊ノ如ク之ヲ國債ノ支償ニ  
用ユルトキハ則大ニ其増殖ニ害アルノミナラズ採鑛諸賞  
ノ如キ準備額中ヨリ文費スベキ者此他ハ少ナカラ  
ズシテ三數年間果シテ其増殖ノ效ヲ見ルベカラス今

此ヲ彼ニ轉シテ國債ノ一項ヲ常用額中ヨリ支出  
セバ即準備支出ノ數ヲ減ニテ速ニ其餘裕ヲ見ロシ  
專ラ指鈔鑿摩ノ用ニ後テ得事亦甚便ナラズヤ  
且公債証書買收ノ事ノ如キモ國債支償ノ一項ヲ  
舊ニ仍テ準備中ニ置クハ該寮債主ノ名アリト  
雖モ其利子ハ之ヲ他ニ得ルニ非ス自カラ出シ自カラ  
收ルニ過ス其效安ニカ在ルヤ佛國國債寮公債証  
書買收ノ例ヲ視テ其便否ヲ知ルニ足レリ故ニ此  
改正ヲ企望スル所ノ者ハ後ニ西式ヲ喜フニ非ス我實際  
ニ於テ其利害ニ關スルニ鮮ニ非サルヲ以テナリ請フ

連之ヲ允裁セヨ然レ人民ニ還付スル細務ヲ併テ  
之ヲ出納案ノ管理ニ皈セシムヘシト云ニ非ス唯準備  
支出ノ制ヲ更テ常用ノ費項ト定メ以テ計表ノ体  
裁ヲ改ムルニ過サルノミ但秩祿公債ニ至ツテハ初メ之ヲ  
裁スル後年ノ祿米ヲ抵當トシテ之ヲ出納スルヲ以テ  
其旨趣固ヨリ異ナレハ是猶準備額中ヨリ支出スルニ  
害ナシ因テ謹テ所見ヲ陳スル此ノ如シ

同第二議

維新以降發行スル所紙幣ノ見數既ニ九千餘萬圓ノ  
鉅額ニ上其人民ノ使用ニ給スル始メハ衆皆其輕便ヲ悅

シモ近時ニ至リ漸ク厭苦ノ意ヲ生スルヲ見ル今其價位  
ヲ復シ以テ真貨ト同シク平行通利セシメントセバ必多  
少ノ經綸ナカルベカラズ蓋其位カヲ保存シテ以テ國家  
ノ利用ヲ濟スルハ果テ何ノ策カアル曰唯此一箇ノ信  
アルノミ今夫漸次消毀シテ信貸ト其數ヲ平クセシ  
メント欲シ便チ年々二百萬圓ヲ消スルモ八十余年ヲ經  
ルニアラザレバ猶其完結ヲ見ルヲ得ズ其間人民ヲシテ  
紙幣ヲ厭苦シテ真貨ヲ貴重スルノ意ヲ増シメハ  
必遽然價位ノ墜下ヲ致シ遂ニ物カノ偏枯ヲ釀シ其  
禍タル將ニ過ヒカラボルニ至ラントス是其理勢ノ必至ル

者ニシテ政府威力ノ能ク防ク所ニアラス風夜之ヲ  
 思フ實ニ暢懼ニタユズ而シテ方今政府紙幣ノ抵換ニ  
 備フル者ハ即チ前ノ謂フ所ノ準備金額ナルモノアリト  
 雖此之ヲ流通紙幣ノ數ニ以スルニ僅カニ其十カニ充タ  
 るモシ今人民ヲシテ之ヲ通曉セシメ或ハ俄カニ上迫ルニ紙  
 幣償却ノ期ヲ以テスル者アラバ政府ハ將ニ何ノ辭カ以テ  
 之ニ答ヘントス是尤深ク慮ルベカラザラニヤ故ニ若シ此民ヲシ  
 テ政府ヲ信シテ疑ハズ辭ノ以テ上迫ルモノナカラシメ  
 ンテ要セバ必先ッ其厭苦ノ念未タ深カラザルニ速ニ  
 テ頒カラク早ク方法ヲ定ムベシ其法他ニアラズ毎歲支

出中第一項三科ヲ分チ約メ内外國債償却ノ  
 數ヲ掲クル前ノ陳スル所ノ如クシ次ニ又歲用中ニ於テ  
 年々紙幣ヲ抵換消毀スベキノ金額若干萬圓ヲ確  
 定シテ之ヲ載セ政府之ヲ人民ニ公示シ又之ヲ會計ノ  
 法憲ニ列シ自今以往凡ソ歲計ノ盈絀ト地方ノ豐歉  
 トニ關セズ必之ヲ遵守シテ上下率由永遠誦ルヲナキノ  
 盟約ヲ訂スルニ在リ抑ニ紙幣ノ物タル之ヲ作ルノ費固ヨリ  
 少ナクシテ之ヲ用ユルノ利大ニ捷カナルヲ以テ古ヨリ計吏ノ  
 財政ヲ塗飾スルモノ常ニ一時ノ苟安ヲ偷ニテ他日ノ患害  
 ヲ顧ミザルニ至ル故ニ苟クモ政府ヲシテ意ニ任シテ之ヲ作ル

ヲ得テ人民ヲシテ償ヲ責ムルノ權ナカラシムバ必終ニ  
 之ヲ濫出シテ以テ財計ノ大患ヲ致サシモ知ルヘカラス彼歐  
 米諸國ノ如キモ蓋此憂ナキモノ少ナシ又聞ク彼諸國ノ  
 人民ニ債スルニ種唯利子ヲ分賦シテ母金償還ノ定期  
 ナキモノアリ是ヲ基安債ト云其民ニ唯利子ヲ得ル  
 ニ甘ニテ母金ノ償却ヲ望マズ是ヲ以テ其債積覺エズ  
 巨萬ノ多キニ至リ政府終ニ其困乏ヲ受ク佛國嘗テ  
 之ニ見ルアリテ始ニ連年ノ償額ヲ定メ歳入ノ盈縮ニ  
 關セバ必其定數ヲ還附シテ以テ人民ノ信憑ヲ固クシ  
 政府ノ困頓ヲ防クト云蓋是レ法ノ宜キヲ得タル者紙

幣ノ如キモレハ基安債ノ一種ニシテ殊ニ母子共ニ其  
 償却ヲ責ムルモノナキヲ以テ其期ノ緩ニ易キ更ニ甚  
 シキアリ故ニ我方法ヲ立ルモ又佛制ニ則リモ不幸ニ  
 シテ歳計ノ歟耗ニ會スルモ寧ロ軍國ノ費用ヲ減シ  
 各省宣支ノ額ヲ損シ決シテ此定ム所ノ紙幣消毀ノ  
 金數ヲ虧クテ得ズ大凡何十年ヲ以テ此功ヲ竣スルノ  
 全期トナシモシ政府此盟ヲ易フルアルハ民ヲシテ責ム  
 背約ヲ以テスルヲ得セシムベシモ善ク此法ヲシテ確  
 立洵ワラザラシムバ必以テ人民ノ信據ヲ固クシテ永遠  
 紙幣ノ價位ヲ保存スベク併セテ外人ヲシテ歎畏ノ念

ヲ生ゼシムルニ足ラン是豈理勢ノ必然至テ見易キモノ  
ニ非ユヤ又敢テ所見ヲ陳シ併セテ採擇ニ備フ

大正十一年四月  
大隈侯爵郵奇贈

紙幣ノ價格ヲ維持スルノ議

近来紙幣ト正金トノ間ニ歩合ヲ生セシハ何故ナル  
カト其原因ヲ探ルニ輸入輸出ト相償ハズニテ貨幣  
外ニ漏出シ内地ノ通用漸ク乏シキニ至ル是ヲ第一因ト  
ス高沽ノ輩顛敗多ク人々頓ニ儲蔵ノ念ヲ生ス是ヲ  
第二因トス人智漸ク開ケ紙幣ハ真貨ノ証書ナルコト  
ヲ悟ル是ヲ第三因トス準備金若干アリト雖モ未タ  
交換ノ用ニ足ラザラ知ル是ヲ第四因トス新舊公債  
証書ノ類多ク世ニ行レテ自ラ通幣ノ代用ヲナスヨリ  
紙幣ノ數ヲ増スモノ如シ是ヲ第五因トス

昨年會計ノ都合  
ヨリ金貨抵當又ハ



無抵當ニテ暫ク紙幣ヲ流用セシ高千〇拾四萬圓ニ上ル此高ハ全通ノ而シテ此紙  
 額其十分一余ヲ加ヘタル割合ナリ是ニ冥ニ中ノ一妨障ト謂ハルベカラズ  
 幣ノ歩合現今二分内外ニ居ルト雖前ニ述タル種々ノ原  
 因ハ增長ノ勢力カラ具ルニヨリ此歩合ハ漸次増進スルアリト  
 モ減退スルコトナカルニシ此歩合一分ヲ進ムレハ人民ノ憂告  
 一分ヲ増シ其甚シキ至テハ政府モレニ竟ニ此幣ヲ受ル  
 ラン何トナレハ政府外國ノ拂方其他正金ノ入用アルトキ此  
 歩合ヲ以テ買揚ザルヲ得ザレバナリ如此場合ニ至ルトキハ其  
 歩合一日ヨリ甚シク遂ニ上下困弊ニ陥リ之ヲ救フノ道  
 ナキニ至ランモ知ルベカラズ思フテ斯ニ至レハ人ヲ悚然タラシム  
 故ニ今日ニ在テ早ク此弊患ヲ防クノ方略ヲ設ケズニ何

以テ皇國理財ノ大計ヲ保持スルノ得ニヤ而シテ今  
 試ニ其方略ヲ求ルニ紙幣ト金貨ノ差ヲ立ルヲ禁止  
 スルノ布告ヲ出サンカ是レ已巳ノ舊轍固リ其効ヲ  
 奏シガタシ然ラバ金銅銀貨幣及金屬ノ輸出ヲ  
 嚴禁スベキカ是レ今曰行ハルベキノ理ナシ  
魯西亜ハ紙幣ノ低價ヲ  
患ニ此禁ヲ設クト間然レドモ此レ貿易ノ景況如何ニ關シ未タ以テ一概摸倣スベカラズ 故ニ其本ヲ拔キ源ヲ塞  
 クノ法ニ至ラハ工藝ヲ勸奨シテ物貨ヲ盛ニシ外暴ノ  
 念ヲ抑ヘテ不急ノ需ヲ後ニシ土木虚飾ノ費ヲ  
 省キ億素節約ノ風ヲ勵シ高務局ヲ開キ方法  
 ヲ設ケテ商沽ノ敗産ヲ保護シ其他造幣ノ業

ヲ盛ニシテ鑄造ヲ増スニシカス然レドモ此數項ハ事  
ノ全局ニ涉ルヲ以テ朝ニ定議ニシテタニ着手スルヲ  
得ス因テ姑ク我大藏ノ責任上ニ就テ其方略如何  
ヲ尋繹スレハ準備ヲ増殖ニテ紙幣ニ敵對セシ  
ムニシト雖モ準備ノ如キハ其減セザラン事ヲ務ム  
ルニ汲カトシテ未タ増殖ノ效ヲ見ズ本年一月準備ノ在高一千八百九拾萬圓ノ内家祿資金ニ  
供スベキ龍動新債ノ尚現存セシ金額凡貳百拾四萬圓ヲ引キ其殘數千六百七拾萬圓  
ヲ全ク準備ノ本金トシ紙幣ノ總數ニ以例スレハ纒壹割七分五厘ニ上ラズ其交換ノ用周給  
シ難キヲ知ル且明治六年一月ヲ四視スルニ準備金千七百萬圓  
アリシ然レハ爾來増殖ノ致ナキノミナラス却テ其減スルヲ見ル況ヤ今日焚眉ノ  
急トスイツクニソ其増殖ヲ待ツニ違ヲランヤ故ニ今其  
策ヲ轉ニシテ現時流通セシ紙幣ノ總額九千六百方

圓ニ就テ其一分ヲ引揚之ヲ燒燬スレハ即チ準備一分ヲ  
増スニ同シク其二分ヲ減却スレハ其二分ヲ加エルニ均ニカル  
ベシ且準備ノ如キハ縱令其幾分ヲ増殖スルモ世人或  
ハ普ク知ラズシテ遽ニ紙幣ノ輕重ヲナニ思ハズ故ニ紙幣  
ヲ減シテ其燒却ノ數ヲ明カニ公布スルトキハ之ヲ知ル影  
響ノ如キノミナラス政府ノ信以テ人心ヲ感受セシムルニ  
足ツテ紙幣ノ價格ヲ維持スル是ヨリ善キハナシ然レ  
ドモ減却ノ數少ケレハ其功少シ故ニ其數多キニシカズ  
ト雖モ會計ノ都合ヲ審量シ其適度ヲ定メザルベ  
カラズ因而窳ニ其景況ヲ考ルニ準備ニ收ハスキ石高貸

付藩札準備貸付及舊藩貸付ノ類、昨年ノ以例  
ヲ以テスレバ、本年モ凡百萬圓余ノ上納アルベシ、又本年  
開拓使ヨリ約ラ逐テ還約スヘキ金七拾三萬圓余

此石高貸付舊藩準備ノ如キハ、毎年收入アルモノ之ヲ準備總額ニ併集シテ  
未タ曾テ償還ノ用ニ供セズ、是レ蓋シ大儲テ大ニ蓄ムルヲ欲スル旨趣ナルベシ  
然レモ條理上ヨリ論ズレバ、以テ直ニ大政官札及舊札ヲ引揚ヘキナリ、然カセバ  
官府代ツテ人民ノ借財ヲ引受ルモノ、如シ故ニ是レヲ今日ノ急需ニ供スル時ハ自カラ斯等ノ不都合  
合ラ免ルベシ、顧テ此等ノ上納ハ大抵紙幣ナルベシ、此紙幣新札

ナレバ紙幣實ニ還納シテ流通ヲ減シ舊札ナラバ焚燬付  
スルヲ得ベシ、如此ナレバ交換ノ煩ナク事極メテ便ナルベシ、然  
リト雖モ此數項ハ纔ニ百七拾萬圓ニ止リ紙幣總額百  
分ノ二ニ上ラズ、此少數紙幣ノ價格ヲ動スノ功效ナカルベ

シ是ニオイトテ百方其策ノ充全ヲ求ルニ本年常用ヨリ

準備ニ移入スヘキ日連金九百萬圓アリ

此外本年七月ニ至リ常用ノ  
殘金悉皆移入スヘキ見込凡千五

百萬圓アリ、トイヘドモ此數ハ決算  
ノ確數ニテラズ、故ニ併セ論ヘズ、其半額ヲ断然勇割シ前ノ數

項ト併セテ此償却ノ處分ニ供セバ紙幣總額ノ凡十六

分一ヲ収完スルノ割合ニ當ルガ故ニ其價格ヲ恢復スルコ

トヲ得ルヤ疑フベカラズ

今試ニ着手ノ順序ヲ立レバ先ツ紙幣流通ノ總  
額ヲ布告ニ而シテ後石高貸付等ノ上納ヲ待テ

ス速ニ百萬圓乃至二百萬圓ヲ完収シテ之ヲ發火、投シ其事由ヲ

普ク世ニ告クヘシ、如斯ニテ本年內日連ノ總額ヲ悉皆支消ス、明年ノ如キ

モ同一ノ法ヲ用ヒバ設令價格低下ノ勢アルモ是ニ固テ必ス

維持保存スルヲ得ベシ之ヲ譬ルニ堤防ヲ修補シテ

河水ヲ捍クカ如シ其少破ノ時於テ手ヲ下シ其功ヲ

怠タラザレバ之ヲ悠久ニ保持スベシト虽モ一旦潰決暴漲  
勢ヲ逞スルニ至リテハ智堵アリト雖モ予テ束テ策ナ  
カルベシ故ニ紙幣ノ償却ハ時機ノ緩ガセニスベカラザル水  
ヲ禦クヨリモ甚ニ若シ因循一日ヲ曠スルトキハ其價格ノ  
下ル沛然トシテ水ノ阜ニ就クガ如ク今日六百萬圓ヲ以テ其  
勢ヲ制シ得ベキモノ明日ハ百萬圓アリト虽モ恐ク其功  
ヲ奏シ難カルベキナリ或云百般ノ經費日々供給暇ラ  
ラズ此際六百萬圓ノ巨額ヲ割クトキハ日需大ニ乏シク會  
計ノ途ヲ塞クコトナキヲ保タスベシカズ裕ヲ他日ニ俟ニ  
ハト嗚呼是レ何ノ言ヲ價格低下ノ害ハ三千萬人中

一人ノ被ラザルモノナク其疾苦言フニ忍ビザルモノアリ  
豈之ヲ嗤視シテ救ハザル付スベケンヤ抑九百萬圓ノ如キ  
ハ常用ノ贏餘ニシテ始ヨリ無キモノト思ハ何ソ勇割ス  
ルヲ憚ルニ足ランヤ又贏餘ヲ以テ日需ニ供セント欲スル  
ハ理財ニ拙シト謂テ可ナリ况ヤ其半額ヲ割ニオイテヲ  
ヤ且大蔵ノ責任ヨリシテ之ヲ云ハ日需ニ乏シキハ一時ノ  
艱辛ニ止ル紙幣低下ノ勢防杜スベカラズシテ理財ノ  
運用大ニ蹶キ遂ニ全國ノ會計ヲ誤ルニ至テハ之ヲ歴  
史上ニ留メ臭ヲ百世ニ遺サンモシルベカラズ豈深ク懼レ  
遠ク慮ラザルベケンヤ聞ク米國政府久シク紙幣ノ

多數ナルニ因シカ近時正金ニ交換スルノ令ヲ布クト其  
國カ果シテ此事ヲ完結スルニ足ルヤラシラズトモ其  
英斷實ニ欽ズベキナリ故ニ切ニ希望ス我政府ニ奮然  
勇決速ニ此舉ニ着手アラシコトヲ

金札引換公債証書ヲ發行スルハ戊辰ノ舊約ヲ履  
ルカ為ノミナラス紙幣ノ多數或ハ後患ヲ来セシテ懼ル  
ノ旨趣ニ出ツ故ニ此証書交換ヲ請フモノアレバ直ニ其需  
應ニシ官府ハ之ガ為ノ莫大ノ利子ヲ給スルニ至ルモ敢  
テ辭スルコトヲ得ベカラズ然ルニ此証書發行ノ布告ハ

既ニ六年一月ニ於テスト雖モ各銀行ノ外之ヲ請願スル  
モノハ僅ニ三四名ニ過ギズ何ソ政府之ヲ懲患スルノ厚子ヲシテ  
人民其意ヲ奉スルノ簿キヤ是蓋ニ其利子ノ少キヲ以テ  
之ヲ他ニ流融ニテ饒利ヲ占ルノ勝レルニ若カザルヲ以テナリ抑  
六米ノ利ハ甚低ト云ベカラズト雖モ世間普通ノ利子ハ  
騰貴ニ殆ニ割余ニ至リ公私愛ニ隔絶スルヲ以テ遂ニ人心  
ノ旣嚮ヲ来ニシラスニテ如此其寡ウカタリ今夫請フ者  
少ケレバ利子多給ノ憂ヲ免ルニ似タリト雖モ是レ大ニ  
政府ノ初心ニ悖ルルニ云ベキナリ是以テ更ニ利子ノ割合ヲ  
増シテ爾來請願ノ者ハ八米利ヲ與フベシト更ニ號令ヲ

布キ以テ人民ヲ勸誘スベシ其説ニ曰茲壹萬圓ノ  
紙幣ヲ所持スルモノアリ然ルニ其價位若シ一分低下  
スレハ九千圓ヲ所持スルニ異ナラズ今其一萬圓ノ内ヨリ一千  
圓ヲ上納シテ証書ニ換ルキハ其殘金九千圓モ漸ク價位  
ヲ増シ遂ニ相當ノ位ヲ保ツニ至ル如斯ナルキハ一千圓ヲ  
割テ其身代ヲ損スルニ非ス之ニ加フルニ一千圓ハ政府ニ  
對セシ公債トナリ年々利子ヲ得ルノ益アリ且世間ノ金  
ヲ貸ス者ヲ視ヨニ割余ノ高利ヲ得ルカ如シト雖往々  
約ヲ破リ其母子ヲ併セテ還サレ者アルヲ以テ其高  
利モ到底薄利ノ正且確ナルニ如カズ而シテ世人未タ之

ヲ悟ラザルナリ今地方官ヲ使テ此理ヲ懇諭セシ  
メバ以テ餘資アル者ノ心ヲ動カシ其方向ヲ此一途轉  
ゼシムルアラニ夫レ如此ニシテ紙幣ノ數ヲ減却スルヲ  
務メバ是レ由テ其低下ノ弊ヲ制遏スルヲ得ルヤ疑フ  
ニカラス蓋シ斯事タルヤ人民ヨリシテ之ヲ言ハハ政府ノ  
為メニ盡スノ義務ニシテ且自ラ其損込ヲ禦クノ術ナ  
リ又政府ヨリシテ之ヲ言ハハ人民請モノタキニ頼テ財  
政ノ顛顛ヲ免ルヲ得ル策ナリ豈亦便ナラスヤ或曰  
請求ノ寡キハ人民ノ便宜ナリ政府豈自ラ好テ不利  
ヲ求メニヤ曰然レモ利子多給ノ不利ハ紙幣低價ノ不

利ニ以ルハ其害如何ヲヤ此レ則チ諺ニ所謂背ヲ棄テ  
腹ヲ護スルノ策ニ出ル所以ナリ

紙幣或問

或問曰方今紙幣ノ流通尤多ク民其便ヲ悦  
ブト虽氏往々金貨ヲ貴重ニテ紙幣ヲ厭フノ  
意ヲ生ス急ニ之ヲ杜クニ術アリヤ 曰有リ名ツケテ  
輕重歛散ノ術ト云 其術得テキクベシヤ曰言ヒ  
難シ然レ氏子試ニ子ノ為ニ其概ヲ言フニ子モ心  
ニ之ヲキケ今ヤ金ハ重クニテ紙幣ハ輕ニ其重キハ  
少ナキカ為ニシテ輕キハ多キニヨルソノ少ナケレバ之ヲ  
散シテ多カラシメ以テ之ヲ輕クシソノ多ケレバ之ヲ歛  
メテ少ナカラシメ以テ之ヲ重クス之ヲ輕重歛散ノ

術ト云フ也 請テ願クハ尚一歩ヲ進メテ以テ其説  
 ノ詳クナルヲ終ヘヨ曰ク譬一ハコニ母子ノ金アリ母  
 質ハ貴クシテ子ノ質賤シ度長ノ小判ト天保ノ一分判ヲ云フカ知シシカレバ  
 其貴キ者多クシテ賤キ者少ナケレバ子ハ母ニ從テ貴  
 シ一分判モトシ度長ノ金ノ光リヲナスモシ之ニ反スル子ノ質貴クシテ母ノ質賤シ  
 天保ノ小判元文ノ分判ヲ云フカ知シシカレバ其貴キ者多ケレバ母ハ子ノ為貴  
 シ天保ノ小判モトシ元文ノ金ノ位ヲ保リ共ニ金貨其貴キヲ失ワズシテ百物價  
 シ百物賤シキニスクレバ其貴キモノヲ歛メテ少ナカラシ  
 ノ母子共ニ貴キヲ失ワテ百物方ニ昂ス百物昂ニ過  
 レバ又貴キモノヲ散シテ多クラシメ母子共ニ貴キニ

復シテ百物稍低ム是此術ヲ行フノ要旨也之ヲ  
 行フノ要ハ既ニ聞ケリ今ニ施スノ法ハイカン曰紙幣  
 ノ輕キハ金ノ少ナキ以テ也モシ金貨多ケレバ即チ  
 紙幣重シ故ニ今官此急ヲ濟フ一時ニ數百方圓  
 ノ金貨ヲ散シテ以テ紙幣ヲ歛スレバ紙幣忽チ  
 重キヲマシテ金貨輕シ官其輕キニ乘シテ又紙幣  
 ヲ散ス紙幣既ニ散スレバ紙幣又輕クシテ金貨重  
 シ官又其重キニ乘シテ金貨ヲ散ス歛而散シ散シ  
 テ歛ス常ニ此ノ如シテ循環ヤマズ以テ權衡ヲ平カ  
 シニ輕重ヲ保スコレラ今ニ施スノ法ト云也而シテ今



ノ紙幣ヲ歛散スル金貨千萬圓ヲ以テ是レトス  
唯其歛散ノ際姦商ヲシテ我ヲ窺得ヤ  
ラシムルニ在ルノミ 曰其術イカン曰或ハ之ヲ一地ニ施  
サズシテ之ヲ各地ニ行ヒ或ハ初メハ東ニ施シテ後ハ西  
ニ行ヒ或ハ是ニ歛シテ彼ニ散シ南ニ貴クシテ北ニ賤ス  
ルノ類ヲ云フ其臨機應變文字ノ能盡スベキア  
ラズ又膠柱刻鵠者ノ能行フ所ニアラズコレ即チ  
初メニ言ヒ難シトスル所以也子苟クモ能ク之ヲ思フバ  
蓋或ハ得ル所アラシム自カラ予ク提擧ラシ俟タサル  
者アラントスコノ術以テ數百年ニ行スベキヤ曰不可

ナリコレ固ヨリ子カ濟急ノ詞ニ對ルノミタゞ憂シ  
テ之ヲ通シ民ヲシテ倦マザラシムルノ一策ニスキズ  
官モシ之ヲ善ク施ス寸ハ二三十年間或ハ其厭供  
ヲ生スルヲ杜クベシ此間ヲ以テ別ニ紙幣ヲ毀消シ  
大凡今ノ三分一ニ減セバ必ス滯澁ノ患ナシ其弥  
縫ノ巧ト不巧トハ人ニ在リ區々ノ能聲在ス所ニ非ス紙  
幣或問ヲ作ル

Vertical columns of handwritten text in a traditional Chinese style, enclosed within a blue border.

